

演題番号:2

テーマ 1:グローバルヘルスを支える医療人材(育成)

ラオス人民民主共和国における看護師のコンピテンシー評価尺度の信頼性と妥当性の検証

田村 豊光¹、島田 恭子¹、菊池 識乃¹、Souksavanh Phanpaseuth²、Anusone Sisoulath²、
Phengdy Inthaphanith²

¹ 国立国際医療研究センター国際医療協力局

² Nursing and Midwifery Board, Healthcare Professional

【目的】コンピテンシーに基づく教育は、低中低所得国の看護教育分野でも主流となるが、その教育を受けた看護師のコンピテンシーを明らかにした先行研究は非常に限定的である。また、コンピテンシーを測定するための尺度は、救急看護など特定領域の尺度が多くを占めるという現状から、研究対象のコンテキストを考慮した尺度開発が必要である。そこで、ラオスのコンテキストに基づき、ラオスの保健医療施設で看護サービスを提供する看護師のコンピテンシーを評価するための尺度を開発することを本研究の目的とする。

【方法、対象】ラオス保健省によって策定された National Competency for Licensed Nurse in Lao PDR の 5 領域 43 項目の指標を基に質問票を作成した。その後、ラオス保健省、看護師養成機関の教員および保健医療施設の関係者と共に、臨床に就く看護師を対象にプレテストを実施し、内容的および表面的妥当性を検証し、自己記述式の質問票を最終化した。その後、首都ビエンチャンおよびチャンパサック県で調査を実施した。

【結果】回収した質問票 355 件を分析対象とした。その結果、ラオス国籍 355 名(100.0%)、男性 39 名(11.0%)女性(89.0%)、年齢 33.1 ± 8.5 S.D.、看護師経験年数 10.9 ± 8.5 S.D.であった。信頼性検証のためのクロンバック α 係数は 0.97 であった。また、項目間の相関を検証のため Pearson の相関係数を算出し 0.609~0.828 の範囲であった。また、Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性が 0.97、Bartlett の球面性検定は $p < 0.001$ であった。続いて 5 領域 43 項目の指標を潜在変数 5 因子として確認的因子分析を行ったところ、固有値の累積が 73.2%であった。次に、最尤法でのプロマックス斜交回転によるパターン行列で因子構造を検証し、因子負荷量が 0.4 未満および 2 因子以上に重複した変数を削除し、5 領域 43 項目から 5 領域 39 項目の変数を基に共分散構造分析を行った。その結果、 χ^2 二乗値 2044.4、自由度 692、 $p < 0.001$ 、GFI 0.736、AGFI 0.703、CFI 0.893、RMSEA 0.078 となった。また、潜在変数間の相関が 0.50 以上であった。

【考察】尺度開発は、信頼性と妥当性を検証することにより、ラオス保健省が策定した National Competency for Licensed Nurse in Lao PDR の指標は、クロンバック α 係数 0.97 であることから信頼性が確保されている。また、KMO の標本妥当性と Bartlett の球面性検定および潜在変数が 5 因子として規定されていることから、確認的因子分析が適用される。また変数間の関係性から斜交回転を適用したところ、モデル適合度が十分であり構成概念妥当性が確認された。以上より、信頼性および妥当性が担保された 5 領域 39 項目の変数による尺度が開発された。